



童話の里を彩る 300万本の彼岸花

平成2年のこと、南吉と同じ岩滑に生まれ育った小栗大造さんは、ある壮大な計画を思い立ちました。“南吉がよく散策した矢勝川の堤をキャンパスに、彼岸花で真っ赤な風景を描こう。”ただ一人で草を刈り、球根を植えるその姿に、一人また一人と手伝う人が現れ、やがてその活動は「矢勝川の環境を守る会」へと発展します。こうして現在では、秋の彼岸（9月下旬）になると東西約1.5kmにわたって300万本もの彼岸花が咲くようになりました。また周辺の休耕田にも、菜の花、マツバボタン、コスモスなど季節ごとに花が咲き、四季を通して童話の里を彩ります。



南吉の ふるさと半田

新美南吉記念館

NIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM



展示室

展示室では、自筆原稿や関係の図書、日記、手紙などの資料を通して、南吉の生涯と文学活動を紹介します。

図書閲覧室

図書閲覧室には、南吉の全集や絵本のほか、研究書や日本の児童文学に関する文献、郷土資料などが集められ、南吉文学を知る手助けをしていきます。

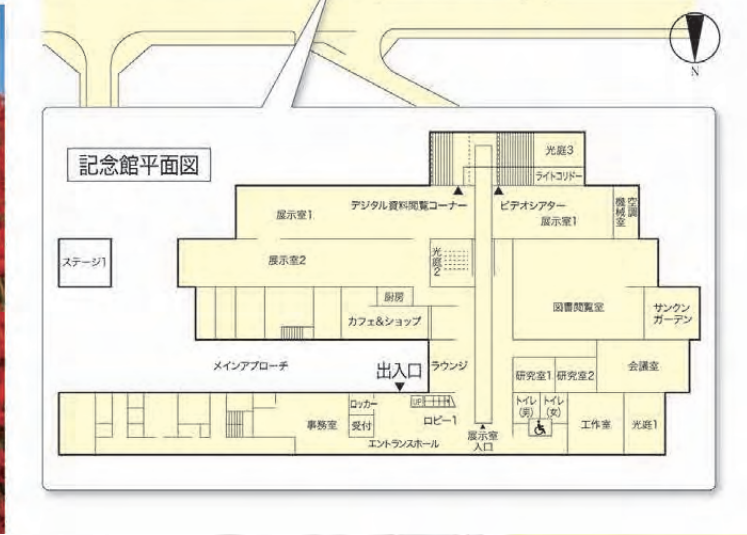


鉄道

名古屋線 名古屋駅 知多半田駅 (15分)
名鉄河和線 名古屋駅 阿久比駅 半田駅 (20分)
JR東海道本線 大府駅 半田駅 (15分)

自動車

名古屋高速 名古屋IC 大府IC 知多半島道路 半田中央IC (5分)
伊勢湾岸道 伊勢湾岸IC 大府IC 知多半島道路 半田中央IC (5分)



カフェ&ショップ

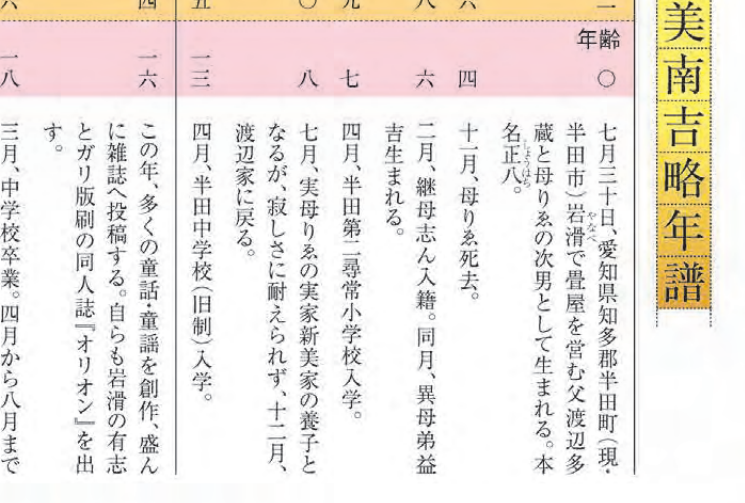
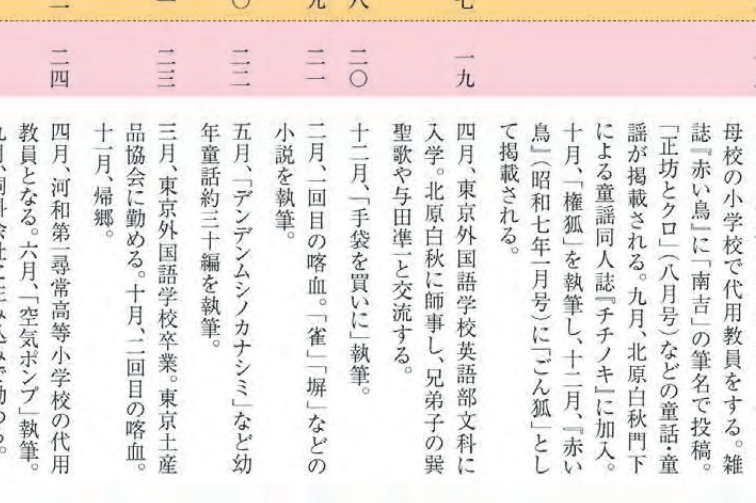
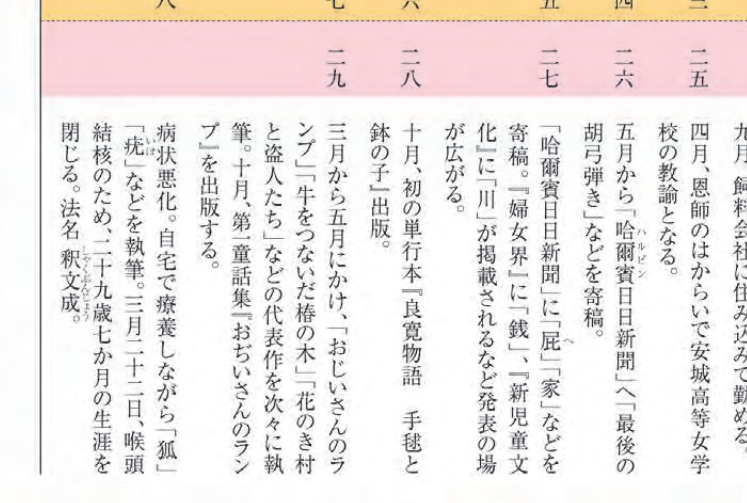
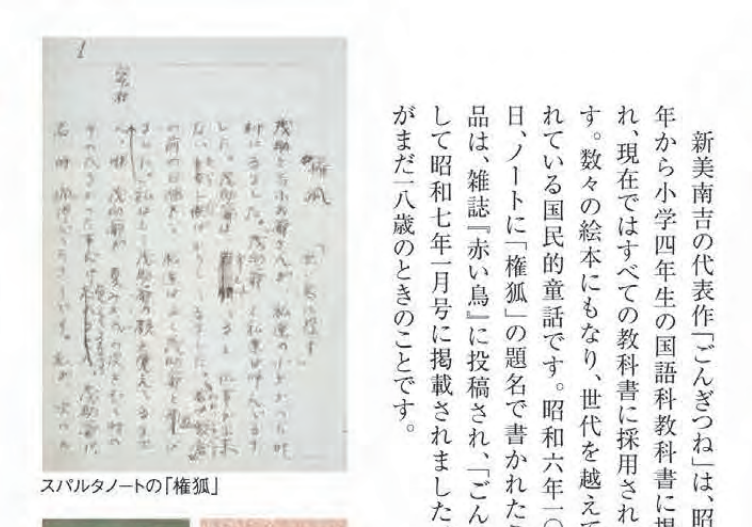
新美南吉記念館に併設されたカフェ&ショップ。絵本や書籍のほか、市内の銘菓や南吉童話グッズを取り揃えています。カフェではオリジナルコーヒー「権ブレンド」が楽しめます。

☎0569-26-1885 営業時間10:00~17:00



利用案内

●開館時間／午前9時30分～午後5時30分
●休館日／毎週月曜日・毎月第2火曜日・年末年始
●観覧料／20名以上の団体は各170円
●駐車場／57台・身障者用2台・バス専用3台（無料）





南吉の養家 MAP C-2 公益財団法人かみや美術館分館

実母系の実家の新美家。裕福な農家だったが、大正10年、叔父鎌治郎の病没により跡取りがいなくなり、同年7月、当時8歳の南吉が養子として迎えられた。南吉は、ここで祖母と二人きりの生活をおくるが、寂しさに耐えられず、12月には渡辺家へ戻った。童話「小い太郎の悲しみ」「川」<A>に登場する。半田市指定文化財。裏の土蔵が資料館になっている。

養家内部の見学は要予約(有料)かみや美術館 ☎0569-29-2626

「おばさんの家は村の一番北にあって、背戸には深い竹藪があり、前には広い庭と畑があり、右隣は半町も距たってをり、左隣だけは軒を接していた。そのような寂しい所にあって、…日暮になると私はもうどうしたらよいか解らなかった。冬の木の下のや、軒端に積まれた藁の上にちょこんとして、遣り場のない寂しさを、藁のすべを噛み噛みこらえていた。そんな時に、どこかの知らない人が野良の帰りに、どうして知ってるのか私の名を呼んで、「おとなしいの」とやさしく言ってくると、ふと温いものを感じて、眼頭が熱くなって来るのであった。」 無題「常夜灯の下で」

旧墓地 MAP a-エ

現在、岩滑コミュニティセンターのある場所は、昭和8年まで岩滑の墓地だった。「ごん狐」でごんが六地藏の陰から兵十の母の葬列を見る場面は、ここが舞台になっている。ここから光蓮寺に続く道を「そうれん道」と呼んでいた。

はなれの家跡 MAP b-イ

大正13年に父が購入。南吉が普段の寝泊まりに使い、病に伏せなくなったところでもある。部屋中に本棚を組み、その下で寝ていた南吉は「本に押し潰されて死ぬなら本望だ」と語る。伊勢湾台風で倒壊し、現在は案内板が建つのみ。



権現山 MAP E-1

阿久比町植大にある小山。山頂には、昔から「権現さん」と呼ばれてきた五郷社が鎮座し、西麓には西狐谷池が山影を映す。南吉が子どもの頃、この辺りに狐が住んでいて、「ごん狐」の名の由来になったとも言われている。



岩滑小学校 MAP E-2

南吉の母校で、昭和6年には代用教員として教鞭をとった学校でもある。「嘘」「貧乏な少年の話」「尻」「耳」に登場。校内に権狐碑・落葉詩碑・当時から子どもたちを見守る烏白の大木がある。

※見学の際は学校に連絡のこと



南吉の生家 MAP b-ウ

南吉の生家、渡辺家。道から見て、右が父多蔵の畳屋、左が継母志ん下の駄屋である。知多半島を縦断する街道と横断する街道が交わる地点に位置し、付近には常夜灯や石の道標もこっている。幼い頃の南吉は、店から表の道を行き交う人々を見ながら育った。傾斜地に建っていて、正面から見ると平屋だが、裏に回ると二階建てになっている。童話「狐」や小説「雀」「帰郷」などの舞台で、南吉が亡くなる二か月前に喉の痛みをこらえながら、「狐」「小さい太郎の悲しみ」など早期の作品を書いたところでもある。一時、人手に渡っていたが、半田市が購入し、当時のままに復元して昭和62年から公開している。

9時～17時(見学無料) ※年末年始は休み

道標「右 半田、もろさき 左 かめさき、三州」



同盟書林 MAP G-4

明治から続く老舗の書店。南吉も本や教科書、文房具などを求めた。中学時代、小遣いの少ない南吉は、ここで「赤い鳥」などの雑誌を立ち読みすることも多かった。童話「疣」にも登場する。

小栗風葉の生誕地 MAP G-4

小説家小栗風葉(明治8～大正15)の生家の美濃半薬局。「小栗風葉誕生之地」の碑が建つ。風葉は尾崎紅葉の門人で師が未完のまま遺した「金色夜叉」をまとめあげた。

六地藏・南吉の墓(北谷墓地) MAP D-3

北谷墓地は、昭和8年に半田町内の四つの墓地を集めてつくられた。入口を入ると両側に数多くの地蔵が並んでいるが、そのうち入ってすぐ左側(西側)の6体が岩滑のもので、「ごん狐」のなかでごんが隠れていた六地藏にあたる。

南吉の墓は、昭和35年、遺族によって建てられた。墓石の裏には、詩人の異型歌(童謡「たきび」の作者)による墓誌が刻まれている。



常夜灯 MAP b-ウ

文化5年(1808)、岩滑の秋葉講により建立された常夜灯。南吉の生家の前にあり、幼い頃の南吉の遊び場のひとつ。石段には、子どもたちが「草つき」をして進んだくぼみが残る。「花を埋める」「音ちゃんは豆を煮ていた」に登場する。



文学散歩 ボランティアガイド		■申込み/新美南吉顕彰会 ☎0569-26-4888 無料・2名から受付		——自動車 ……徒歩での移動	
■10日前までにお申込みください。		※半田口駅から出発して生家周辺を散策するなど、ご希望に応じてアレンジできます。新美南吉記念館展示室の案内もいたします。(40～50分)			
Aコース(60分)		Bコース(90分・A+光蓮寺)		Cコース(120分・B+養家)	
南吉記念館 → 1500m → 生家駐車場 ……		南吉記念館 → 1500m → 生家駐車場 ……		南吉記念館 → 1500m → 生家駐車場 ……	
70m → 南吉生家 …… 5m → 常夜灯 …… 110m		70m → 南吉生家 …… 5m → 常夜灯 …… 110m → 八幡社 ……		70m → 南吉生家 …… 5m → 常夜灯 …… 110m → 八幡社 ……	
70m → 八幡社 …… 70m → はなれの家跡 ……		70m → はなれの家跡 …… 30m → 常福院 …… 270m		70m → はなれの家跡 …… 30m → 常福院 …… 270m	
30m → 常福院 …… 160m → 生家駐車場 ……		30m → 常福院 …… 360m → 生家駐車場 …… 1500m		30m → 常福院 …… 160m → 生家駐車場 …… 3900m	
1500m → 南吉記念館		→ 南吉記念館		→ 養家 → 2900m → 南吉記念館	
Dコース(150分・C+南吉の墓)					
南吉記念館 → 1500m → 生家駐車場 ……		南吉記念館 → 1500m → 生家駐車場 ……		南吉記念館 → 1500m → 生家駐車場 ……	
70m → 南吉生家 …… 5m → 常夜灯 …… 110m → 八幡社 ……		70m → 南吉生家 …… 5m → 常夜灯 …… 110m → 八幡社 ……		70m → 南吉生家 …… 5m → 常夜灯 …… 110m → 八幡社 ……	
70m → はなれの家跡 …… 30m → 常福院 …… 270m		70m → はなれの家跡 …… 30m → 常福院 …… 270m		70m → はなれの家跡 …… 30m → 常福院 …… 270m	
30m → 常福院 …… 160m → 生家駐車場 …… 3900m		30m → 常福院 …… 160m → 生家駐車場 …… 3900m		30m → 常福院 …… 160m → 生家駐車場 …… 3900m	
1500m → 南吉記念館		→ 南吉記念館		→ 養家 → 2900m → 南吉記念館	



常福院 MAP a-イ

永禄年間(16世紀中頃)、岩滑城主の中山勝時が菩提寺として建立した浄土宗西山派の寺院。戦前は境内で盆踊りが行われ、南吉もよく踊っていた。童話「ひよりけた」の舞台となったほか、「久助君の話」、小説「塀」にも登場する。



ででむし広場 MAP a-ア

通称「安川」が矢勝川に合流する所につくられた小広場。ででむし(蛸牛)の像やキツネの滑り台などがある。広場の名は、南吉が安城高亭女学校で生徒たちとつづっていた詩集に掲載した詩にちなんでつけられた。



矢勝川 MAP D-2他

岩滑新田と岩滑の北側を流れて、阿久比川に注ぐので、背戸川(裏の川)とも呼ばれる。「ごん狐」では兵十がウナギを捕っていた川として登場する。秋の彼岸には300万本の彼岸花で彩られる。

※詳しくは表面



しんたのむね MAP D-2

童話「牛をつないだ椿の木」の舞台となったところ。江戸時代に開発された新田にちなみ、「新田の棟」の意でこう呼ばれた。昭和30年代までは、作品に描かれたとおり清水が湧き、茶碗が置かれていて、人々がのどを潤していた。



狐塚碑 MAP D-2

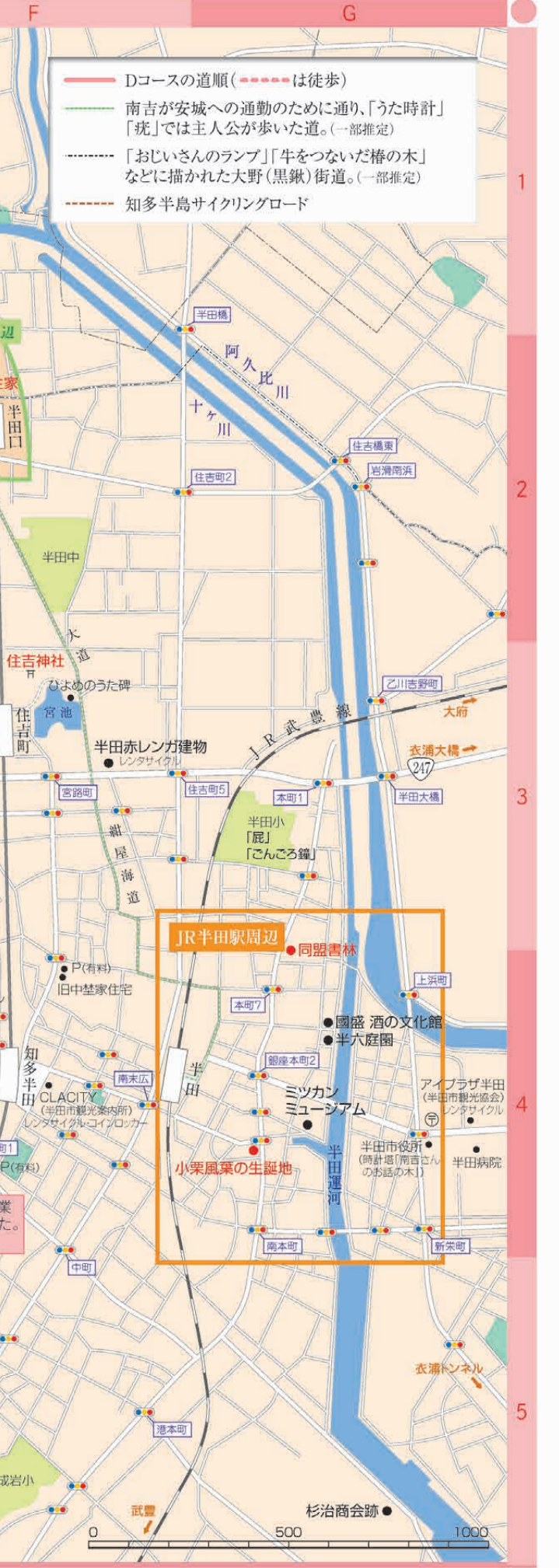
昭和初期に村人から「六蔵狐」と呼ばれ親しまれていた狐を祀った稲荷社の跡。畑仕事をしていた百姓が六蔵狐に弁当を分けてやったところ、忘れ物を届けてくれたという民話がある。南吉も「六蔵狐」の題名で童謡を書いている。



半田高校 MAP E-3

前身は知多郡唯一の中学校だった旧制半田中学校。南吉は同生で、在学中から創作活動を始めた。昭和4年3月2日の日記を直筆文字から刻んだ石碑やブロンズ像「少年とごん」がある。

※見学の際は学校に連絡のこと



國盛 酒の文化館 MAP G-4

半田の酒造りの歴史を伝える酒の博物館。展示のほかにきき酒もできる。

●休館日/毎週木曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始・盆
●開館時間/10時～16時
●入館料/無料 ※見学には予約が必要です。
☎0569-23-1499

半田市立博物館 MAP E-4

知多半島の自然・歴史や半田の醸造業の他、山車の実物展示を間近に見ることができる。

●休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
●開館時間/10時～18時 ●入館料/無料
☎0569-23-7173

MIZKAN MUSEUM(ミツカンミュージアム) 愛称:MIM(ミム) MAP G-4

ミツカの酢づくしの歴史、食文化の魅力にふれ、楽しみ学べる体験型博物館。

●休館日/毎週木曜日・年末年始
●開館時間/9時30分～17時
●入館料/「全館コース」大人300円、中学生200円、小学生100円
「大地コース」大人100円、小・中高生50円
☎0569-24-5111
※見学には予約が必要です。

半田赤レンガ建物 MAP F-3

明治時代のレンガ建造物としては全国屈指の規模を誇る旧カプトビール工場。

●休館日/年末年始・定期点検日
●開館時間/9時～17時
●常設展示室入館料/高校生以上200円
☎0569-24-7031